

C-48 日本在来織布の研究（第4報）——藤布について——

鹿児島大教育 小林孝子

目的 生活の近代化につれて，民俗服飾は急速に滅亡の途上にあり，その保存・記録が望まれている。近年私は，日本在来織布について調査・記録を行ない，すでに数地区の葛布，阿波の太布などについて報告してきたが，今回は藤布について発表する

方法 藤布の紡織工程の撮影記録，および現存の藤布・藤衣について織の密度の測定，また藤布の用途など。

結果 藤布も地域によって，材料の採集・紡織の技法・織布の用途などに類似や差異が認められたが，また一方，生活用具の中には太布と同様の用途をもつものも見出された。